

令和 8 年度珠洲市総合教育会議

会 議 概 要

- 1 開催日時 令和 8 年 8 月 3 1 日 (月)
開会 午前 1 0 時 0 0 分
閉会 午前 1 1 時 2 3 分
- 2 開催場所 市庁舎 4 階会議室
- 3 出席者 ○珠洲市 珠洲市長 泉谷 満寿裕
○珠洲市教育委員会
教育長 吉木 充弘
教育長職務代理 濱 育代
委員 葛原 秀史
委員 刀祢 喜春
委員 畠山 義邦

○事務局関係
総務課 課長 端根 優子
課長補佐 石尾 泰宏
教育委員会事務局 事務局長 山口 茂樹
教育環境魅力化推進室長
倉見 倫代
次長 徳田 聡美
次長 前田 保夫
次長 山下 裕子
主幹(兼)係長 西谷内 俊宏
主幹(兼)係長 河崎 裕子
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議内容 別紙のとおり

1 開会	
泉谷市長あいさつ	吉木教育長をはじめ教育委員会委員の皆様方にはお忙しい中ご出席をいただき誠にありがとうございます。 本日の珠洲市総合教育会議ですが、「より魅力ある教育環境のあり方」について、検討会を6月29日に立ち上げ、先日8月17日に第2回目の検討委員会を開いています。その内容についての確認と、改めて教育委員会委員の皆様方から、この「より魅力ある教育環境のあり方」について、ご意見・ご要望等をお聞きしたいということで開かせていただいたところです。 第1回目と第2回目の議論の論点は、小学校1校・中学校1校にすると選択の余地がなくなるということ、一方で宝立小中の枠をどうするかといったこと、あるいは大谷小中学校につきましては、児童生徒数が4名ですが、生徒の皆さん、保護者の方々、地域の皆さんもぜひ残してほしいということでした。元々、特認校ですので何とか残していきたいということです。 みさき小学校・三崎中学校をどうするかも大きな論点ですが、何とか第1回、第2回の検討会を通して、大谷小中そして宝立小中については残していこうと。また宝立小中につきましても特認校ということで、市内各地、市外・県外からも児童生徒さん方が通えるようにということ、宝立地区の児童生徒さんが必ず宝立小中に入ってくださいということではなくて、自由度を持たせながら存続させていただければという想いです。 三崎中学校につきましては、第1回目についてはできるだけ早く統合した方がという話もありましたが、第2回目では現在通っている生徒の皆さんが卒業するまでは、統合をせずにそのまま行っただ方がいいんじゃないかと。 またみさき小学校については、第1回目のときにはできるだけ存続させたいという地域の皆さんの想いもありましたが、第2回目についてはみさき小も統合という方向になってきたかなという状況です。 そして用地、場所についてですが、緑丘中学校は残していく。その上で、いずれ解体新築をしなければいけないということで、それとあと小学校についてはいろんなご意見が出ました。外浦の方に建てるべきとか、蛸島のジャンボリー跡地に建てるという選択肢もあるのではないかと。本来の選択肢としまして緑丘中学校の校舎を解体して、そこに小学校も整備することができないかという案、あるいは陸上競技場に統合小学校を建てられないかという案、そしてまた市民図書館の横に、これは民地ですので用地が手に入るかどうかといった懸念はありますけれども、私としましては市民図書館の近辺に用地が取得できるようであれば、そこがベストではないかなという想いです。 ただ、検討会の方では具体的なイメージをお示ししないとこれ以上議論が進まないかなということもあり、本日の総合教育会議では、取りあえず今のイメージをお示しさせていただきたいと思います。その上で、この「より魅力ある教育環境のあり方」について、そして用地の選定についてご意見を賜ればと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

吉木教育長あいさつ	泉谷市長におかれましては、日頃より教育委員会所管の事業推進に本当に多大なご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。また、委員の皆様には、先ほどの教育委員会定例会に引き続き、総合教育会議にご出席をいただき、ありがとうございます。 今ほど市長から、魅力ある教育環境のあり方検討委員会についての話がございましたけれども、発災後現在ある 11 校の子供たちに、どういった魅力ある教育環境を提供していくかということで、オンラインによる授業ですとか、連合運動会ですとか、音楽の集い、そして今年度は中学校の合同文化祭を計画して実施する予定にしています。これも本当に市長のご理解をいただいて、オンラインの機材等も大変な金額のものを入れています。 そういったおかげもありまして、子供たちの意識調査。例えば学校に行くのは楽しいと思えますか、自分に良いところがありますか、こういったものは小中とも 100% 近くになっています。ごく小規模校の子も、やはり行くのは楽しい。そして自分の良いところがあるということです。 検討委員会の中では、統合の枠組み、用地、そういったことも議論がなされていますが、委員の方々からは、やはり、教育の内容についても、ご意見をいただいています。 そういった良いところもありますが、将来の夢や目標を持っていますかというアンケートに対して、小学生は 87%。中学校は 63%。中学生になると、ガクンと下がっている現状もあります。それから、スマートフォン等で動画をどれだけ見ますかというところで、1 時間以下という子供は、中学校においては 2.3% しかいない。ほぼ全員が 1 時間以上、SNS や YouTube 等の視聴をしている現状もあります。 良いところもたくさんありますけれども、まだまだ課題もありますので、委員の皆さんからご意見をいただきながら、また市長からもいろいろご意見をいただきながら、取り組んでいきたいなと思っています。本日の総合教育会議、忌憚ない皆さんのご意見をいただければと思っています。本日はどうぞよろしくお願いします。
2 議事	
泉谷市長	先ほど冒頭ご挨拶でお話ししましたように、これまでの検討委員会の議論について、あるいは本日お示しをしました新しい統合小学校のイメージについてもご意見があれば伺いをしたいと思います。 畠山委員さん、三崎について、何とか今通っていらっしゃる生徒の皆さんが卒業するまでは三崎中を残してほしいということで、あとみさき小についても、統合小学校の方に行きたいという保護者アンケートでご意見が多数を占めたといったことも踏まえて、その辺りについていかがでしょうか。
畠山教育委員会委員	先般の 2 回目の検討委員会に出席しまして、皆さんのご意見を伺っていましたが、私は統合に賛成です。 本来ならば、小学校は家から近いところ、歩いて通えるところがベストだと思いますけれども、珠洲市はそんな状況ではなくなりました。小規模校で子供が少ないことは、様々な弊害があると思います。 学校はやっぱ人間教育といいますか、様々なことを学校時代に学んでいくのが必要だと思います。人間性というのは、教科で言えば例えば

	音楽に関しては、学習指導要領で示されていることをしっかりと生徒に具現化していくことが必要ではないかと思います。体育に関しては、個人でできる陸上やマット運動はいいとしても、ボール運動に関しては、ただ単に基礎練習だけではなくて、ゲームを取り入れる。ゲームの中で、自分の役割をしっかりと掴んでいく、指導力を育てていくという項目があるかと思います。 私は先般、学校公開で大谷小中学校の体育の授業を見学してきました。児童生徒3名と先生で、サッカーのパス練習の授業をされており、次にシュート練習、次が2対2でボールを奪い合う。練習はそこまででした。 例えば部活動に関して言えば、基礎練習だけをしていてその後何もなしだったら、誰もしないと思うんです。野球でも、練習だけで3年間で終わらなければ誰も入ってこない。つまり、自分が練習したことの成果を、試合の中で試したいというのがあるかと思います。 となれば、授業でも、練習だけではなく試合をして、その中で自分の役割を見つけて、指導力とかを発揮して、というのが必要かなと思います。少人数ではできない。多くないと。だから、統合小学校1つと、それから大谷・宝立は残してという案ですが、それはそれでいいとは思いますが、子供のためを思ったらそれでいいのか。私としては、ある程度の人数を集めて、子供にとって様々な経験をさせてやるのが学校教育ではないかなと思います。 確かに地域のために寂しいとか、コミュニティー活動が廃れるとかという意見もありましたけれども、それは二の次でありまして、子供が主役かなと。子供にとってという観点が一番大事じゃないかな。本当ならば、1人しかいないのはいかがなものかなあという気はします。三崎に関しては、統合に賛成とおっしゃったので、私もそれには賛成です。
泉谷市長	ありがとうございます。それでは宝立小中は選択肢として何とか残せればということですが、刀祢さんいかがですかね、そういったことも含めて。
刀祢教育委員会 委員	第2回の検討委員会のご意見を聞いたときに、私もちょっとびっくりしました。5年前は早く統合をという意見が多々ありました。今回PTAさんのアンケート結果は、7割が残してほしい。区長さんも宝立町民の意見が6割残してほしいということで、5年前の意見と反対になったのかなと感じています。 私もずっと統合には賛成派だったんですが、子供たちの数の減少また学校の老朽化などを見れば、やはり統合が望ましいなと感じています。 5年後、10年後の子供たちにとって、よりよい環境づくりを重点に置いていかなければいけないなと思っていて、多くの仲間と出会って、お互いの考え方とか、価値観をいろいろ知った上で、時には協力し合って、子供たちが少しでも成長できるのが一番良い環境づくりかなと考えています。また、いろいろなことを学ぶことによって、将来自分が社会で生きていくのに必要な力を身につけていくために、学校の環境づくりも必要じゃないかなと思っています。 新聞記事にありましたが、羽咋市に統合した小学校があって、その統合した子供たちにアンケートをとりました。25名が統合した大きな

	学校に入ったんですけれども、全員が統合してよかったという意見が載っていました。保護者さんも、100%の方が統合してよかった、子供たちが楽しく学校に通っている。珠洲市もそういう楽しい魅力ある学校になっていけばと感じました。 最近ニュースで、子供が誰に相談するかというと、まず友達。親、先生…ではないんですよ、今は。先生とか親に相談すれば、大ごとになってしまう。何事も、AI なら誰にも迷惑をかけない。いろいろ答えてくれる。そういう時代なのかなと感じています。テレビでも、中国で行われたロボットの競技大会の映像を見ましたら、2 足で人間よりも速く走る。これから AI とかロボットの時代が近い未来にやってくるのかなと感じています。 多くの友達ができれば、横の繋がりも生まれますし、大人に対してリスペクトできる人間の形成といったことは、大人数の中でもできるんじゃないかなと私は感じています。
泉谷市長	結局、宝立の地域の児童生徒が宝立小中に行くとは限らないかもしれませんが。あるいは市内の違う地区の児童生徒が宝立小中を望むかもしれませんが。そういう形になって宝立小中を残すという方向性についてはいかがですか。
刀祢教育委員会委員	残す方向なら、先ほど市長のおっしゃった特認校という形にすれば、残す意味があるんじゃないかなと思います。
泉谷市長	最近、先ほどの時代性が変わってきたこともあるのかもしれませんがけれども、大人数の学校は行きづらいと感じる児童生徒もいらっしゃる。現実になんかありますので、選択肢として残すということ。私もそういった方向でいければなという想いもあります。 ただ、宝立地区から例えば統合小学校に、あるいは緑丘中学校に行く分には、公共交通、交通機関を何とか対応しながらということになると思うんですけれども、逆方向というのはなかなか難しくなるのかなと。保護者が送り迎えすることも生じてくるのかなという気はしますけれども、特認校という位置付けで、他地区から宝立小中に向かう方については、義務教育とは言いながらも、公で通学の移動を支援するといったことは必要なのか必要ないのか。あるに越したことはないでしょうけれども。
吉木教育長	市バスのコースや時間帯がうまくいけば、おそらく全てスクールバスを出すのではなくて、市バスが基本になるかなと思います。 同じように、宝立小中を特認校にしたときに、市バスの時間帯やルート工夫によっては、他地区から宝立小中に通うことは可能なのかなと思います。
濱 教育長職務代理	第 1 回目と第 2 回目の会議に、傍聴という立場で参加させていただきました。 第 1 回目のときには皆さん個々の想いで、PTA 会長、公民館代表、区長さんという立場で、自分の地域を思いながらの発言が非常に多かったかなと思います。その流れの中で、A と C 案が、第 1 回目は非常に多い会合になったかなと思います。

	第 2 回目のときに、第 1 回目を受けて、それぞれの学校がまた PTA で集まってアンケートをとってみようよとか、地域の声をもっと拾って集まろうという流れの締めくくりを受けて、それをしっかりと皆さん保護者を開いてくださったりとか、少しでも地域のいろんな声を拾おうとして、参加してくださったと思います。 まず、珠洲市の教育をどうしようかというところを考えてくれるところが、私はすごいことだなと思います。 そんな中で、この間の会合のときには、三崎の小中のところに大きく視点が当たって、そこをまずどうしようか、それから宝立をどうしようかというところが最後の締めくくりだったかなと思います。 私は昨年度、市長さんや教育長さんが全部の学校を回られて、意見を拾ってくださった要点録を、その会議ごとに 1 回ずつ読み直しをして参加させていただいています。本当に保護者の人も地域の人も揺れ動いていることがすごくよくわかって、自分自身、こういう立場の中で発言するとき、そういうものを受けながら、しっかり答えたいなと思っています。 大谷地区に関しては、もうすぐ 11 月 15 日に 10 周年の記念の式典を行うことになっていますが、残るという案を受けながら、地域の人たちも絡めながら、その式典の中で、どうやったら少ない人数の学校に人が集まるのかというところに視点を当てた討論会をしようというので、人が集まる工夫、その辺に視点を当てながら、魅力あるというのは一体どういうことなのかを考えながら、今その式典を迎えようとしています。残ったからには、やっぱりゼロにはさせられない。 それから、きっと特認校だからこそ、苦しんでいる子を引き受けられる学校として、どういう教育を展開しなければいけないのか、そういうこともみんなで話し合いをしたりしています。 やっぱり大きな学校になったらなったで、苦しい立場の子が現れます。みんなが 100%大きい学校が良かったとなれない子も保護者もある、出てくる可能性もあります。 そういうときに、特認校として受け入れられる受け皿をしっかり教育の中に展開していくことも大切だということを地域のみんなと話し合いをしています。 この間の 2 回目の会議のときに、三崎の方から中 1 の子たちが強い希望を持っている、保護者も持っている、そんな中で卒業するまで待ってもらえないかという意見を受けた形で締めくくりがあったのは、大変よかったかなと思います。 その間に、次の小学校の子たちはきっと緑丘の方へ順次行く形になっていくとは思いますが、三崎地区としてもいろんな準備ができていくんじゃないかなと思って、あの会を聞いていました。
葛原教育委員会 委員	私も、前回の魅力ある教育環境のあり方検討委員会を傍聴させていただきまして、まず感想ですけれども、やっぱり各地域の想いはかなり強いなと感じました。 私自身の考えですけれども、自分の子供が学校に通ったときからだんだん少子化の影響で、クラスの人数が少なくて、飯田小学校でも複式になった時期があったり、統合の話も出てきたりして、震災前は最初、統合なんてあり得ない、まさか飯田小がなくなるなんてという想いがありまして、統合には反対の立場でした。

	ただ、教育委員としては年に何回か学校訪問に行かせていただいて、授業参観もさせていただいた中で、友達とのコミュニケーションといった面を考えたら、今の状況でいいのかなと疑問も湧いてきて、やはり、子供たちのことを第一に考えたときに、確かに地域に小学校がないのは寂しいですけれども、ある程度の規模の人数の中で切磋琢磨することが、小さいときからの経験として進んでいった方が、将来、この珠洲市を担っていく人材の育成ということも考えたら、統合した中で、珠洲市独特の教育を展開していくのがいいんじゃないかという考えに変わりました。 私は一番懸念していたのは、それぞれの地域性といいますか、例えば特に祭りを中心とした伝統文化がありまして、同じ珠洲市内でも、宝立なら宝立、上戸なら上戸、飯田、直、正院、蛸島、三崎や外浦・大谷とか、本当に多種多様な文化が存在しています。それを、その地域として子供たちに提示していく、ふるさと教育を担っていくことは大変重要だなと認識していました。実際に私も、祭り近くになると、飯田小学校や直小学校から呼ばれたりして、なぜこの町にキリコや山車が出るんだということを、子供たちに教える機会もたくさんいただいていたので、そういった経験談はどうなるんだろうという不安もあったんですけれども、それは統合した中で、学校にその地域の先生のような人を招聘して、今度は珠洲市の全体の子に、例えば宝立はこうだよとか、飯田はこうだよということで、珠洲市の全体を知る教育ができるんじゃないか。これが将来的に魅力ある環境なんだと思いましたので、私は今では統合に賛成の立場です。具体的に言いますと、私はB案です。 5年後、10年後を考えたときに、宝立を残す残さないということもあるんでしょうけれども、基本的に小学校1校、中学校1校、義務教育学校1校の3校でいくべきだと私は思います。大谷小中を残すことで、先ほど濱委員も言われましたけれども、大規模校に馴染めない子供たちは必ず出てくると思いますし、今全国的に問題になっている不登校、35万人以上いると言われている。そういった子供たちを受け入れる学校として、大谷小中学校が存在するという形がベストじゃないかと私は思っています。 用地は図書館の横の、珠洲の文教地区と言われるエリアを形成されればと思います。
泉谷市長	ありがとうございます。 あと、統合小学校のイメージですけれども、今度の検討会の中で、A案B案C案といったレイアウトも考えるべきではないかなと思います。ただ、用地が取得できるかどうかは不透明ですので、それも確認もしながら、同時進行ということになるのかなと思います。
濱 教育長職務代理	私は、かつて校長のときに、西部小と大谷中が廃校になって、今の大谷小中という形を受ける中にいました。 説明を市長さんから何回かPTAの皆さんが受けて、意識が変わっていったのはやっぱり校舎でした。先生、どうせ作るんなら、どこの学校にもないような校舎にしたいねとか、人数が少ないから、真ん中に何か小ホールみたいなものができるといいねとか、いろんなワクワクを、保護者の皆さんは段々話し合うようになっていきました。

	校舎の図面が出てくるのは、次の学校をどう構築していくかのワクワク感があると私は思っています。だんだん広場ができたりとか、体育館の２階をあえて作ったりとか、保護者の人たちのご意見をいっぱいいろんなところに反映していったら、それが東海北陸で初めてとなる義務教育学校のスタートを、宝立さんと一緒に切るような形で、このいろいろな案も、きっとワクワク感が保護者にとってはすごいエネルギーになっていく。次の学校では、というエネルギーが持てるような話し合いが、今後進められたらいいなと思います。統合してよかった、あの校舎でよかったとなればいいなと思います。
泉谷市長	私も常々申し上げますけれども、統合するということであれば、児童生徒はもちろんのこと、保護者の方も、地域の皆さん、市民の皆さんも希望が持てる、そんな学校にしていかななくてはいけないと。学校の内容ももちろんですけども、校舎のイメージも、希望が持てる校舎にすべきであると思っています。 大谷地区の皆さんが、大谷小中学校を残すということに希望を見出されると思います。もし大谷小中が統合でなくなるということになると、おそらく希望というよりも、本当に失望ということになるんじゃないかなと思います。 宝立小中を残すことが地域にとって希望となるのか、あるいは失望となるのか、そこも慎重に見ていかないといけないのかなと思っています。 あとはこの新しい学校のイメージですね。
事務局	皆さんのお手元の図面は、２万平米の中に約１５０人規模の学校を落とし込むと、どのくらいで収まるかを見てみたイメージですので、今ほどのご意見を踏まえて、レイアウトは今後検討していきたいなと思っています。
泉谷市長	普通教室については、１学年１クラス？
事務局	１学年１クラスです。
吉木教育長	今統合すると、こういう時代、特別支援学級は多分必ず設置することになります。そうすると、通常の学級数プラス、障害を持つ子の特別な教室も作る必要があるんで、教室数だけを見ても、全く足りないような現状です。
泉谷市長	あとはレイアウト次第なんだと思います。グラウンドを取ります、駐車場を取りますとやっていると、どうしても面積的に非常に厳しくなってくる。
吉木教育長	直小とかみさき小学校は、市内では比較的新しい校舎ですけども、最低限の教室等で建てているので、例えばみさき小の特別支援学級は、図工室を半分つぶして作ったり、直小学校も資料室を用いて特別支援教室にしていたり、前の視聴覚室を子ども教室にしていたりと、ほとんど余裕がないので、新設する場合はいろんなことを考えないと厳しいなと思っています。

事務局	グラウンドについても、影ができないように、今はとりあえず南側に配置していますし、珠洲道路沿いには住宅がありますので、その影にならないように駐車場を配置していますけれども、平屋にするのか 2 階建てにするのかによって、影の出方も変わってきます。
泉谷市長	あとは、この前の第 2 回の検討会だと思いますが、若山川の氾濫リスクはないのか、ハザードマップ的にどうなんだという話もありました。これは大丈夫だと自分は認識しているんですが。
事務局	県土木さんの話ですと、それに合わせた堤防の高さを設定するということがありますし、今現在グラウンドが南側にありますが、川側の方、要は西側の方にグラウンドを持ってきて、例えば遊水地的な役割を持たせることもあるのかなと思います。 校舎の向きを南北にして、川側の方にグラウンドを持ってきて、そこが浸水してもいい区域にするのかどうか。盛土の量にもよると思います。
泉谷市長	図書館の地面と 3m ぐらい落差があるかな、そこを盛土で埋めるのか、あるいは盛土をしなくても、浸水ハザード的にかわせるのか、若干盛土をした方が安全性を高められるのか、あるいは盛土の上に建物を建てるのが果たしていいのか。 静岡県伊豆山地区の土砂災害で、盛土の規制も厳しくなっていますので、確か 2m を超える盛土はかなりハードルが高くなったという話も聞いています。そんなことも含めて、考えていかななくてははいけないし、ただ時間をできるだけかけずに持っていきたい。 あとは、せめて一部、飯田・直の児童だけになるかもしれませんが、中には歩いて通えるといったことも考えると、進入路はどうするのか、いろいろと思っています。
濱 教育長職務代理	今、校舎のいろいろな角度のところでお話がありましたが、雪の多い地域、東北なんかの学校を見ると、駐車場の上面にも校舎をせり出させるような形で面積を増やしている学校を多く見たということを一つ伝えたいことと、もう一つは、この間の 2 回目の会議が終わったときに、地域の公民館の方や区長さんから、学校がなくなったら、今までの学校はどうなるのかというお声も聞こえました。 石川県内で、この 10 年間で廃校になった小学校は 37 校あります。全国で見ると、8,850 校の学校が、災害とかは関係なく、人数がどんどん少なくなっていく中で廃校になっています。文科省の中にも「未来につなごう『みんなの廃校』プロジェクト」というのがあって、予算などをいただきながら、廃校になった学校をいろいろリメイクするような活動も行われています。全部の学校は難しいとしても、学校はなくなったけれども次の夢が与えられるようなものが、あった学校を核にして、何かできるといいかなあと。希望として、地域の人たちの想いとしてはあるんじゃないかなと思っています。本当にたくさんの学校が今、いろんな廃校のプロジェクトを立ち上げながらやっつけいらっしゃる。情報はいっぱい発信されています。

	もう一つ、例えば大谷を例にすると、公民館を学校の中に入れるとか、他の施設的な扱いのものを入れるとか、そういう事例も全国にはたくさん今出ています。デイサービスが入っている学校とか、そういうものも模索する中には置いておけばいいかなとも思っています。
泉谷市長	空き校舎をどう活用していくかは、今それぞれの地区で「新たなまちのかたち」について議論を重ねていただいておりますが、その議論の大きな一つの要素になってくると思うんですね。これまでどうしてきたかという、小泊の空き校舎を金沢大学能登学舎として利活用しています。あとは日置小中学校については簡易宿泊施設にリノベーションして、いろいろとやってきました。宝立小学校については、耐震性もない、老朽化も進んでいるということで、解体の上メガソーラー施設にしました。ただ体育館は新しかったですから、そこは今も活用していますし、能登半島地震のときに避難所としても活用されたということです。 それぞれの地域で、先ほど葛原委員さんからございました、各地区の伝統文化あるいは祭りの継承等にも活用していくことができるのかどうか。それぞれの地区で、いろいろと議論していただきたいなと思います。 体育館はやっぱり避難所として、今後必要だろうと思いますし、児童生徒が通っている間にエアコンを整備して、もし学校が統合となっても空き校舎となってもエアコンのきく体育館というのは、いざというときに備えるためにも必要だろうなと思っています。 そういったことも含めて、これは魅力ある教育環境のあり方検討会だけでは結論は当然出ないと思います。これから10地区における「新たなまちのかたち」の議論は進めていきますので、そこも含めて考えていただかなくてはならないことになると思います。 そのほか統合のこと、あるいはイメージ図など何かご意見等はございますか。
畠山教育委員会委員	新校舎の向きなんですけれども、学校の時間帯にカーテンを敷くような作りにはして欲しくないなと思います。というのは、例えば飯田高校とかみさき小学校では、午前中からカーテンを敷かないと駄目だというのは、眩しくて黒板が見えないということなので、全ての建物の向きがそういうわけにはいきませんが、せめて教室だけは朝からカーテンを敷いて授業を受けるのは避けてほしいなと思います。
泉谷市長	おそらく緑丘中も飯田高校も南向きなんですよ。そこはいろいろとコンサルで考えてもらえば、いいのかもしれませんね。 あとは刀祢委員さん、宝立小中学校を残すか残さないかということは、地域としてコンセンサスは固まっていないのかな。
刀祢教育委員会委員	固まっていないと思います。
泉谷市長	残した方がいいよねというところもあるけれども、統合した方がいいよねというのも、今、委員の皆様にもお聞きしましてもそういったこともあります。ただ宝立小中を残すことによって、宝立地区の児童生徒さんは基本宝立小中ですよということではなくて、市内全域とし

	て宝立小中を選択肢の一つとして残すということであれば別に問題はないんだろうなと思うんです。 先ほど葛原委員さんからもございましたが、大谷小中は地域の要望として何とか残したいというのはありますけれども、さすがに内浦側から大谷小中は行きづらいといった距離的・地理的な問題で、大谷小中と宝立小中と選択肢が二つになります。そういったことも自分はいいのかなという想いはある。 あとは交通ですね。通学がしやすいかどうか。そういったところも入る。そろそろ 3 回目の検討会では、最終案を決めながらいきたいなと思っています。あとは場所と校舎のイメージの問題。 ただ、そうは言っても三崎中学校については今の 1 年生が卒業するまでは存続ということからいくと、令和 11 年度からは緑丘中との統合ということになると、緑丘中学校をいつ解体・新築するかというのも出てきますよね。 三崎中との統合に向けての解体・新築と、ただ単に老朽化したので解体・新築というのと、おそらく文科省の補助率が違ってくるのではないかと思いますので、同時進行で緑丘をどうするという事は、校舎の物理的な話ですけども、これもあまりゆっくり考えていられないんじゃないかな。例えば来年度に基本設計が必要になるんじゃないかな。
吉木教育長	緑丘中学校は一番市内で古い校舎ですので、建て替えなければならぬですけども、幸い今のところ結構改修もしたりして、不都合はあまりない現状かなと思います。厨房も直してこの 9 月から開始になりますけれども、ただ一番古い校舎であることは間違いないので、そんなに間を置かないで建て替える方向には行かなければ駄目かなと思うんですけども、差し当たっては統合小学校をまず、と思いますが、緑丘も、となってくると、緑丘の今の敷地で小学校・中学校を建てるということも、選択肢としては生じてくるかなと思います。
泉谷市長	もし図書館横の地面が手に入らないとなったら、いろいろ考えていかなくてはいけないですね。それを最初に当てることはもちろん必要です。同時進行で緑丘をどうするかということ。 緑丘中学校も、復旧はとりあえず終わった形になるんですね。体育館も大丈夫ですね。一部、例えば体育館とか、今の厨房は残した上で、少しずつ解体・新築ということを進めていくのかどうなのか。 どうせなら、緑丘中学校をやり替えるのであれば、希望が持てるような学校にしたいけれども、あれだけの敷地があれば、例えば特別教室とか棟ごとに壊して建てて移りながらということもできるのか。一時期プレハブの校舎も必要になってくるのか。
吉木教育長	プレハブを建てないと難しいと思いますけれども、敷地内で完結することができると思います。
泉谷市長	中学校そのものはできますよね。そこに小学校も、ということになるとちょっと手狭そうですね。 3 回目の検討会については少しレイアウトを見直して、出せればと思いますので今後ともよろしくお願い申し上げます。

吉木教育長	先ほどからいろんなご意見をいただいておりますが、今、2回目の検討委員会の流れは、緑丘中学校、統合小学校、そして義務教育学校。市長がよくおっしゃっているように、複線化というのは、子供が選択肢があって非常に私はいいと思いますが、先ほど委員さんからもありましたけれども、小学校、中学校、9年間で接続した義務教育学校。そういった特色を前面に言うていくことが大事なのかなと思います。 例えば不登校気味だとか、そういう子が義務教育学校を選ぶような流れにならない方がいいかな。それぞれ9年間の、連続した一貫した教育を受ける。小学校は小学校、中学校は中学校という、選ぶという形が非常に大事ななと感じました。 大谷小中学校も特認校にするときに、「特例校」ということも少し話題には出ていました。特例校は、教育課程そのものを触って、どちらかというと不登校気味の子が通いやすいようにする。そうすると、大谷の地元の通常の教育課程を受けたい子供が、例えば英語や理科が少し削られてしまうことになるので、当時は特例校ではなくて特認校という形をとったんですけれども、そこはまた今後、どういった義務教育学校、2校を残すとすれば議論をしていく内容なのかなと思いました。 市長からは、もっと魅力的な校舎を、という非常に力強い言葉をいただいて、教育委員会としても頑張っていきたいなと思います。本当にどうもありがとうございました。
泉谷市長	長時間にわたりましてありがとうございました。今後も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

【 終了：午前11時23分 】